7　侍浜アカマツ保護林の施業について

久慈営林署　○後藤昭吾
工藤信彦

1　はじめに

久慈営林署管内は岩手県北部沿岸に位置し、ブナ、ナラを主とする天然生広葉樹林と天然生のアカマツ林が広く分布している。

このアカマツ天然生林を大別すれば、海岸よりの丘陵地帯と山手の山岳地帯とに分けられる。

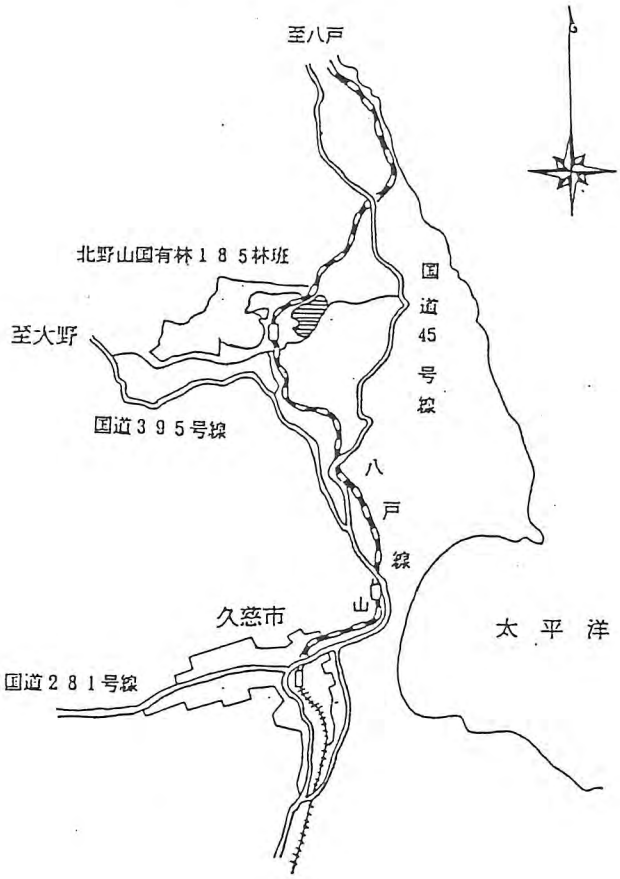
中でも丘陵地帯の侍浜地区を中心とするアカマツ天然生林は、侍浜マツあるいは久慈マツと称され、全国的に有名で、材としても素性が良く、目がつみ赤味を帯びて、年輪が明瞭、光沢がある、ヤニが少なく軽量など数多くの特性をもっている。

しかしながら、近年盛んに伐採されたため、老齢天然林が減少し最近では北野山国有林１８５林班ほ1 ほ2 小班の保護林が面積的にまとまっている最大のものである。

同保護林は、かつては「侍浜学術参考林」と呼ばれていたが、平成元年の保護林の再編・拡充により植物群落保護林に区分され現在に至っている。（写真－１．２）

今回の研究発表は、同保護林を天然のまま自然の推移にゆだねた場合、幼稚樹の発生状況、侵入木の状態、その後の生育状況等についての調査結果、また今後の保護及び管理等について当署なりに検証、考察を行ったものを発表するものである。

図－１　位置図



2　調査地の概要

調査地は、久慈営林署より北方約７㎞に位置する、久慈市侍浜町内北野山国有林１８５林班内である。（図－１）

標高は１８０ｍ～１９０ｍで傾斜はほぼ平坦であり、土壌はＢ１ｄ（ｄ）である。年平均降水量は１，２００ｍｍ前後で春から夏にかけて冷たい偏西風（ヤマセ）が吹き込むほか、３月下旬にはドカ雪をみることがある。

調査地の設定時の地況・林況は下表のとおりである。（表－１）

表－１

設定年月日	林小班名	地　況	種たる樹種	林齢	面積	設定時蓄積
昭和３０年	１８５ ほ１	洪積世　礫 傾斜　緩 Ｂ１Ｄ(d)	ｱｶﾏﾂ　95 ｿﾉﾀ Ｌ　5	98	1,95	Ｎ　７４１ Ｌ　３９
〃	１８５ ほ２	〃 〃 〃	ｱｶﾏﾂ　95 ｿﾉﾀ Ｌ　5	98	5,09	Ｎ　１９３４ Ｌ　１０２
	計				7,04	Ｎ　２６７５ Ｌ　１４１

3　成長量及び植生等の変化と林内の状況

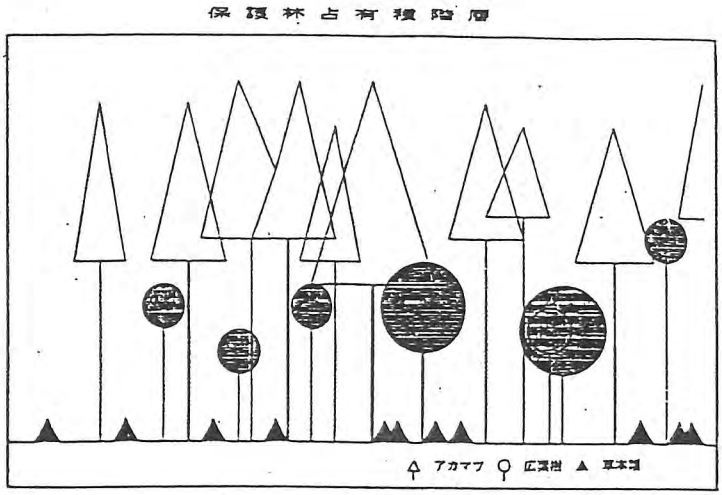
昭和５３年に同保護林内に２０ｍ四方のプロットを設定し、プロット内の植生等について調査したデータがあった。

そのデータと現在の状況とを比較したが、成長量については、ほとんど変化がみられなかった。

また、保護林内の占有種階層は図のとおりとなっていた。（図－２）

侵入木の種類は、亜高木層として、ミズナラ、ヤマボウシ、アズキナシ、マルバアオダモ、コナラ等があり、低木層にはツリバナ、ウリハダカエデ、ヤマウルシ、ムラサキシキブ等があった。
また、草本層としてトリアシショウマ、イチヤクソウ、エンレイソウ、ヤブレガサ等があった。

図－2

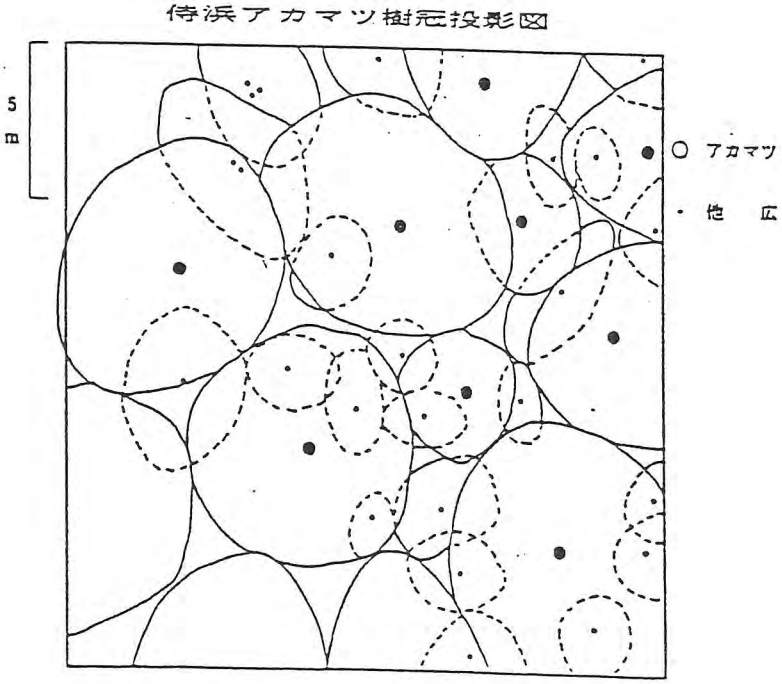


一般にアカマツ林は乾性地又は弱乾性地に集団をなすものが多いが、それらの生長量は一般又はそれ以下であり、生長の良好な林分は適潤性地にみられると言われている。

上－中－下各層で「アカマツ－コナラ－トリアシショウマ型」をなしており、適潤性地の特徴を発揮している。また、各層とも安定した植生といえる。

本地域の群落組成はアカマツを上木として、その林冠下、すなわち亜高木層に広葉樹を混交して、アカマツと広葉樹の２段林を形成しているもので、この型はわが国のアカマツ天然生林の景観を代表するもので各地に広く分布しているといわれる。

高木層のアカマツについては、平均樹高３０ｍ，平均胸高直径７８㎝と太く、その植被率は８５％を示し管内でも例をみない大径木となっている。
樹冠投影図は左図のとおりである。（図－３）



また、林内には以前の台風、雪害等が原因したと思われる立枯木、挫折木、転倒木等が数本みうけられた。

なお、アカマツの稚樹については林内にはまったく見うけられなかった。

標準地調査の結果は表－２のとおりである。

表－２

樹　　種	調査年	本　数	平均直径（㎝）	平均樹高（m）	平均材積（㎥）	備　考
アカマツ	昭和５３年	9	66	29	4.34	
	平成５年	9	66	29	4.34	
	増減率（%）	0	0	0	0	
その他L	昭和５３年	25	14	12	0.09	
	平成５年	25	16	14	0.13	
	増減率（%）	0	14	16	44	
摘　要						

4　考察

保護林内の現況については、設定当時（昭和３０年）の蓄積で比較すると、アカマツについては、４９．６％　侵入広葉樹については４８．９％の増となっているが、昭和５３年調査当時に比較するとほとんど増加はしていなかった。

アカマツについては、今後これ以上の成長は期待できず、過熟林分の状況と判断される。

保護林の取扱いについては、

１）　極盛相にある植物群落等を対象とするものについては、原則として人手を加えずに自然の推移にゆだねた保護及び管理を行う。

２）　遷移の途中相にある植物群落等を対象とするものについては、その現状の維持に必要な森林施業を行うことができるものとする。

となっており同保護林は２）に該当し、必要な森林施業をを行うことができることから、林内にある立枯木、挫折木、転倒木等については、景観、病害虫防止の観点

からも、撤去、売り払いを含め検討する必要があると考える。

また、侵入低木広葉樹については、２段的に広葉樹を混交することによって、アカマツの立木本数の低下や形質の悪化をきたすようなことはなく、しかも混交広葉樹は地力の減退を抑制するだけでなく、林地に適度の腐植と水分を保持するのに役だって、かえってアカマツの成長を促進するといわれているが、保護林の景観を考慮するとある程度の除去は考えてもよいのではないかと思われる。

前述のとおり「保護林は自然の推移に委ねた保護及び管理を行う」ということになっているが、林業関係者のみならず、児童生徒、一般市民の中からも「全国的に有名な地元侍浜アカマツの保護林を視察・見学したいが場所もわからない。」という声もあり、当署としても広く市民にＰＲする意味から児童、生徒、一般市民を対象とした森林教室用のテキスト、パンフレットの作成、案内板、標識板の設置に加え、森林浴、林内散策・観察用の遊歩道等の整備等より有効に活用し得る方策の具体化について検討して参りたい。

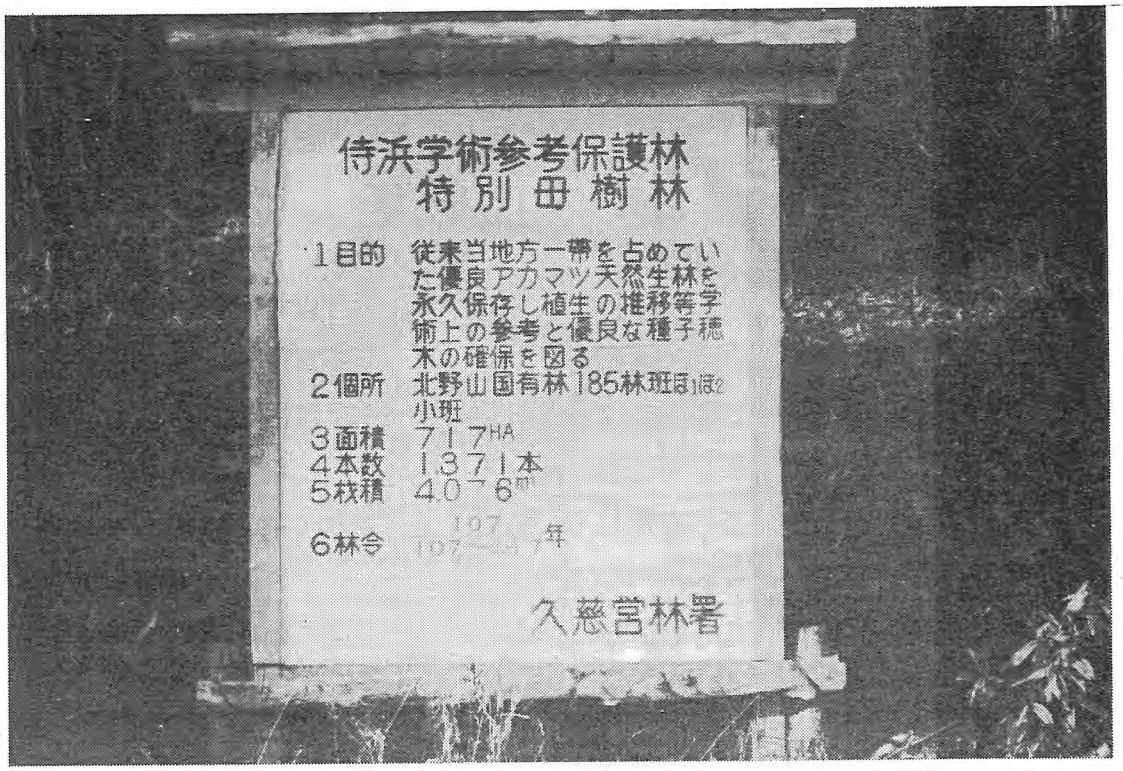
一例として、「休日は森林の中で過ごしたい」という市民が増えています。コンクリートに囲まれた中での一日は、ストレスがたまりがちです。

森林の中で美しい風景を眺め、樹々の香りのするきれいな空気を胸いっぱいに吸い込んで、心からリラックスすれば、ストレス解消にも役立つというものです。

そういう意味からも、同保護林を保安林（保健保安林）に指定し、一般市民の方々がより快適に森林空間を利用できるよう、特別な管理を行い、広く市民にその存在感を知らしめることも必要かと考えている。

5　おわりに

以上、当署管内の「侍浜アカマツ保護林」の現況について発表したが、同保護林については、積極的な広報活動を通じて国民の理解を深めるとともに、学術研究、国民の教育、文化活動の場として、その積極的な活用を図って参りたい。


侍浜学術参考保護林
特別母樹林
1目的 従来当地方一帯を占めていた優良アカマツ天然生林を永久保存し植生の推移等学術上の参考と優良な種子穂木の確保を図る
2個所 北野山国有林185林班ほか小班
3面積 717HA
4本数 1371本
5材積 4076㎥
6林令 107年
久慈営林署